



—尼崎の森中央緑地—

100年の森の物語

—尼崎の森中央緑地—
100年の森の物語



むかし、むかし、^{あまがさき} 尼崎には美しいお城があり、
^{じょうかまち} 城下町は多くの人で賑わい、^{うつく} 海や川にはたくさんの
^{しろ} 船が行き交っていました。

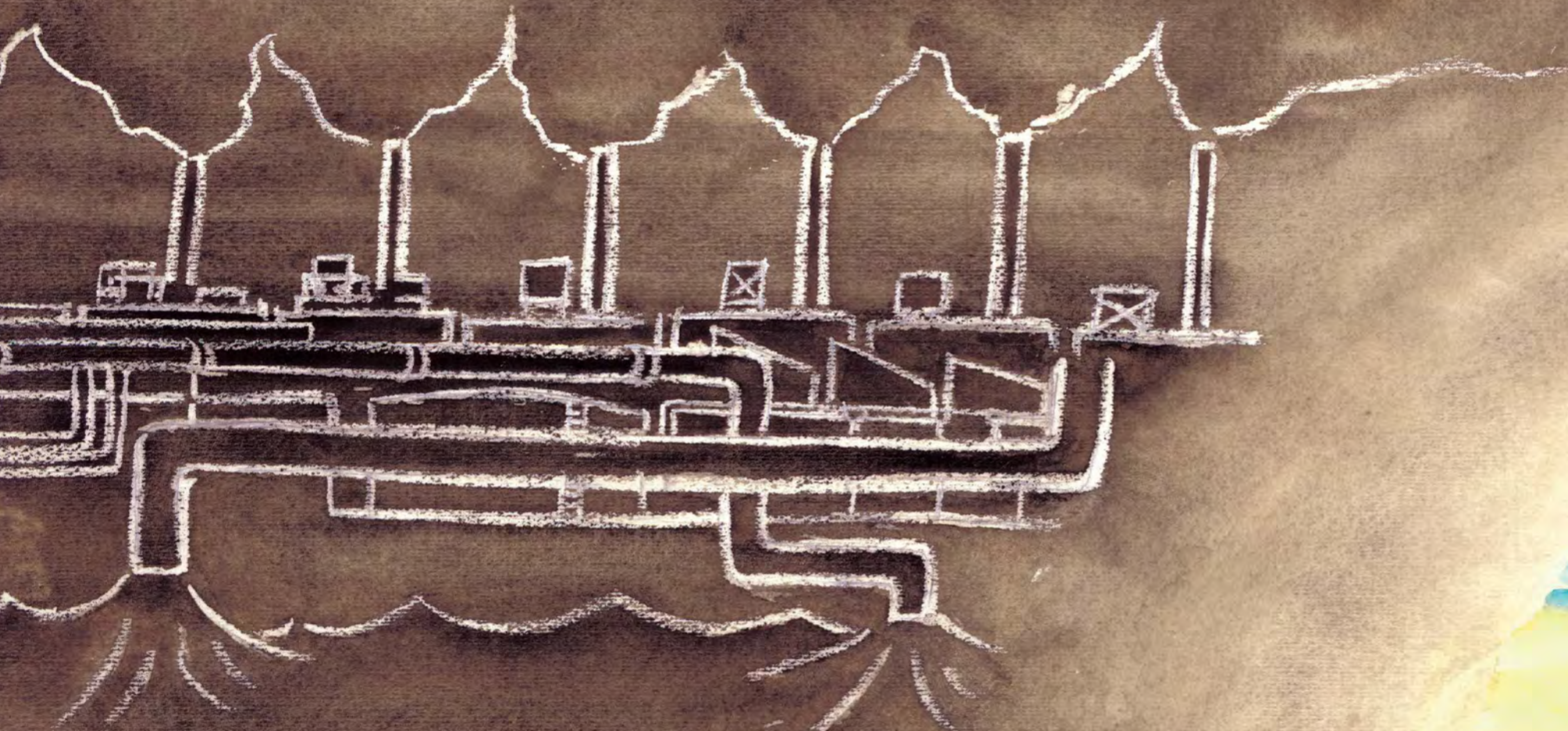
^{うみべ} 海辺には畑や田んぼが広がり、^{あおあお} 青々とした松林が
^{はたけ} 並び、それはそれは美しい砂浜が続いていました。
^{なら} 人々は、^{うつく} 菜種や^{すなはま} 綿花などの作物を育て、^{つづ} 目の前に
^{ひとびと} 広がる海で魚や貝を捕り、^と 自然から^{しぜん} たくさんの
^{めぐ} 恵みを受けて暮らしていました。

あまがさき こうぎょう はってん うつく うみべ う
尼崎が工業の町として発展していくなかで、美しかった海辺は埋め立てられ、

そこにはたくさんの工場が立ち並びました。

工場はモクモクと黒い煙を空に向かって吐き出し、海に汚れた水を流した

ため公害がおき、そこに暮らす人々の健康や命がおびやかされました。



これではいけないと、人々は公害の問題について一所懸命に考え始めました。

そして、みんなの努力で、少しずつ青い空と青い海を取り戻してきました。

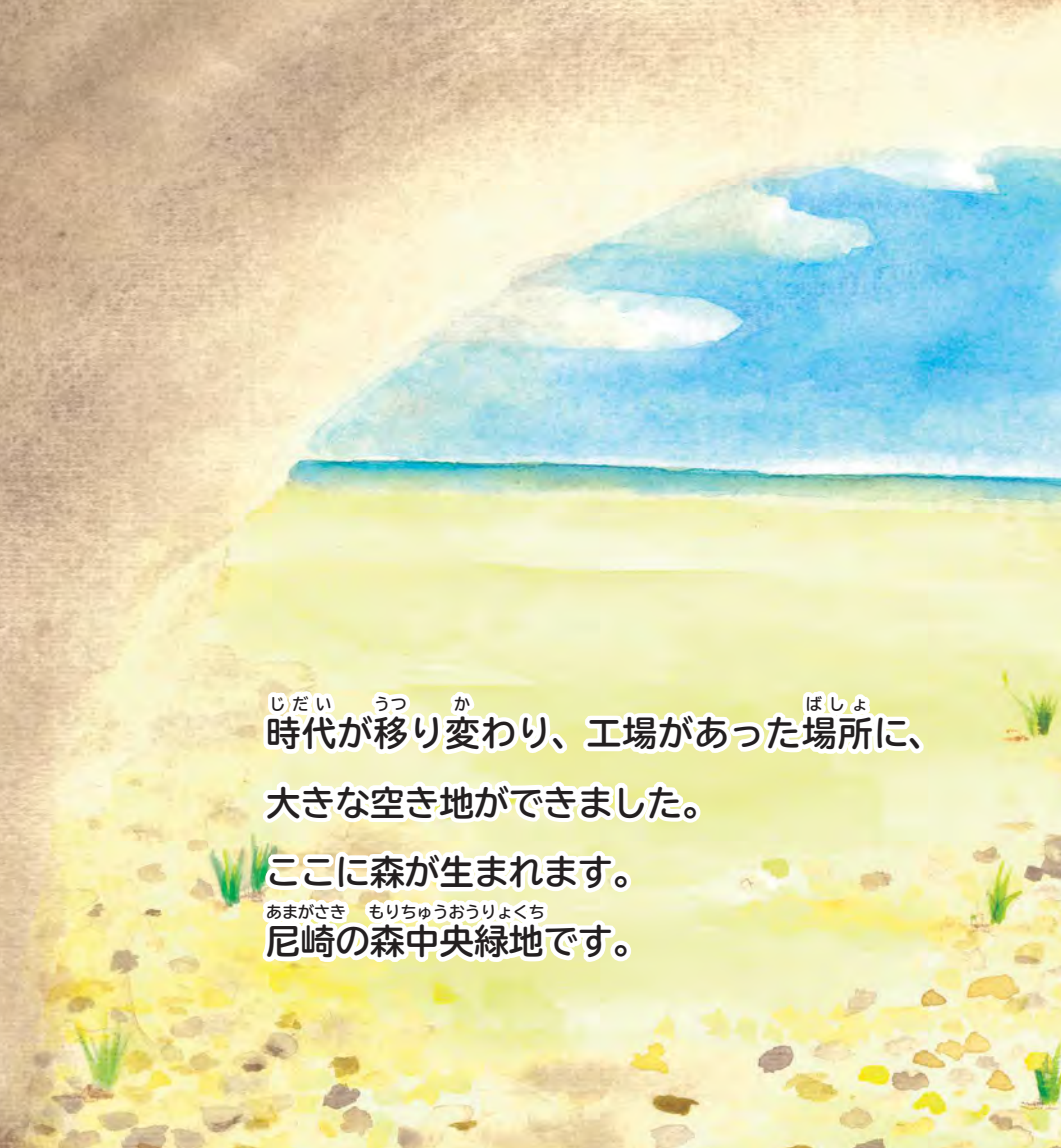


じだい うつ か ぼしよ
時代が移り変わり、工場があった場所に、

大きな空き地ができました。

ここに森が生まれます。

あまがさき もりちゅうおうりよくち
尼崎の森中央緑地です。





みどりちゃんは、^{あまがさき す} 尼崎に住む、小学校 1 年生の女の子です。

秋のよく晴れた日曜日、森づくりに参加する人たちと、
^{ろっこうさん} 六甲山に、どんぐりをひろいに行きました。

どんぐりひろいは、^{きょうそう} イノシシと競争です。

イノシシ^たに食べられてしまう前に、
どんぐりをひろわなくてはなりません。

みどりちゃんは、がんばって、たくさんのどんぐりをひろいました。

そして、^{あまがさき もりちゅうおうりょくち} 尼崎の森中央緑地で、どんぐりをまきました。



つぎ
次の年の春、みどりちゃんは、小学校2年生になりました。
どんぐりから、小さな芽が、顔を出しました。



みどりちゃんは、小学校3年生になりました。

今日は、あまがさき もりちゅうおうりよくち 尼崎の森中央緑地に、なえぎ う 苗木を植える日です。

多くの人がやって来て、なえぎ う 苗木を植えています。

スコップで穴を掘り、あな ほ 根っこがのびのび成長できるように
土をやわらかく、ほぐしてあげました。

それから、穴の中に、あな なえぎ やさしく苗木の根っこをいれて、土をかぶせました。

広い空き地の中で、なえぎ 小さな苗木はたよりなく見えます。

「大きく育ててね。」

みどりちゃんは、話しかけながら、なえぎ 苗木に水をあげました。



みどりちゃんは、小学校4年生になりました。

夏休み、^{なえぎ}苗木に会いに来ました。

でも、あたりいちめん草ばかり。^{なえぎ}苗木が見えません。

草のほうが早く育つので、^{そだ}苗木をおおいかくしていたのです。

みどりちゃんが、いっしょうけんめい^{くさか}に草刈りをすると、

草の中から、^{なえぎ}苗木があらわれました。

^{なえぎ}苗木は、お日様の光をいっぱい浴びて、うれしそうです。

^{つぎ}次の年も、その^{つぎ}次の年も、みどりちゃんは^{くさか}草刈りをしました。

みどりちゃんは、中学校3年生になりました。

なえぎ
苗木を植えて、7年がたちます。

なえぎ
苗木は、みどりちゃんの背をはるかにこえています。

あとち
工場の跡地に、小さな森が生まれました。





みどりちゃんは、20歳になりました。

冬、森^{あそ}に遊びに来ました。

植^うえた苗木^{なえぎ}は、みんな大きく成長^{せいちよう}し、きゅうくつそうです。

そこで混^こみ合^あった木を切ると、森に明るい光がはいってきました。

みどりちゃんは、木^わを割^{まき}って薪にしました。

そして、おいしいピザ^やを焼きました。



みどりちゃんは、30歳さいになりました。

みどりちゃんは、ママになり、赤ちゃんだを抱いて
森あそに遊びに来ました。

「そらくん、これはママが植うえた木だよ。」

赤ちゃんに話かけます。

苗木なえぎは、そらくんを歓迎かんげいするように、色とりどりの葉はっぱを、
はらはらと落おとしました。

野草の花ゆが、風ゆに揺れています。



みどりちゃんは、40歳さいになりました。

「ママ～、ママの植うえた木はどれ？」

みどりちゃんは、10歳さいになったそらくんと一緒いっしょに、森あそに遊びあそびに来ました。

「わ～、大きな木。本当にどんぐりから、こんな大きな木そだが育ったの？」

ママより大きいよ。」

そらくんは、カブトムシつかやクワガタムシむちゅうを捕まえるのに夢中むちゅうです。



みどりちゃんは、80歳さいになりました。

みどりちゃんは、お父さんになったそらくんと、
孫まごのはなちゃんと一緒に、森あそに遊びに来ました。

みどりちゃんが植うえた木は、3人で抱かかえきれないほど、大きくなりました。

うっそうとした森では、毎年、小さなフクロウの
アオバズクがやって来て、子育てこそだをしています。

森の中では、タヌキやキツネ、リスなどの、
いろいろな生きものが暮くらしています。

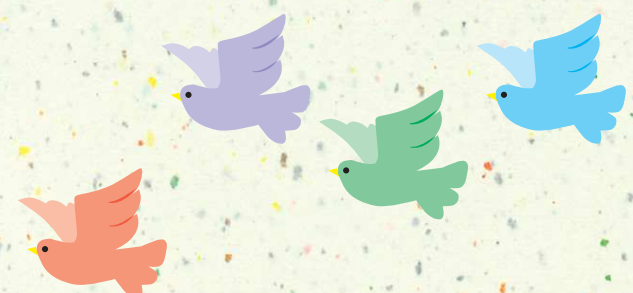
青い海では、魚むの群れが、きらきらと泳およいでいます。

「はなちゃん、これから君きみが、この森みまもを見守って行くんだよ。」

「ねえ、おばあちゃん。
この森が、100歳になる頃、はなはお母さんになって、
赤ちゃんとお遊びに来るね。」



昔のあまがさきの海辺は、白い砂浜に松の林が広がる それはそれは美しいところでした。



時代の移り変わりとともに美しい砂浜は埋め立てられ畑になり、やがて工場がたち並び、そこに働く大勢の人々が日本の発展を支えてきました。その反面、工場の煤煙や車の排気ガスによる大気汚染など深刻な公害問題が発生しました。



「武庫川橋より阪神電鉄武庫川鉄橋を望む」
明治43年
出展: 尼崎市立地域研究史料館所「写真でつづる近代太庄のあゆみ」
編集委員会収集写真

これではいけないと、住民、事業者、行政をはじめとする様々な主体が協力し対策を講じた結果、環境は少しずつ改善の方向に向かっていきます。一方、産業構造が変化し、工場の海外移転による跡地の遊休地化が進むなど地域活力の低下が見えてきました。そこで、兵庫県は尼崎臨海地域を「森と水と人が共生する環境創造のまち」へと再生するため、「尼崎21世紀の森構想」を策定しました。この構想の核となるのが「尼崎の森中央緑地」なのです。



1967年尼崎臨海部航空写真



森の現状

「尼崎の森中央緑地の森づくり」は、3つの基本を大切にしています。

尼崎の森中央緑地では、「いきものいっぱいの森をつくろう」と100年の森づくりに取り組んでいます。



苗木を植えて6年目の森

1

自然の森をお手本にします

尼崎の気候や土によくなじんだ自然の森をお手本にします。

2

森はタネから育てます

タネから育てた苗木は、その場所によくあった丈夫な木が育ちます。タネには遺伝子という大切な情報がつまっています。

3

森はみんなで作ります

尼崎の森には何年もかけて、たくさんの苗木を植えています。植えた後も森づくりに長い時間がかかるので、次世代にバトンをつなぎながら継続して取り組みます。

森への行き方とれんらくさき

- 阪神電鉄
「武庫川」「尼崎センタープール前」駅からタクシーで約10分
- 阪神バス
出屋敷駅→尼崎スポーツの森まで約10分
- 車でのアクセス
阪神高速5号湾岸線尼崎末広IC出口から約3分

【連絡先】 尼崎の森中央緑地パークセンター
TEL.06-6412-1900
住所 尼崎市扇町43

【尼崎の森中央緑地への行き方】



尼崎の森中央緑地の森づくり

尼崎の森中央緑地は昔、巨大な製鉄所があった場所で、現在荒野のような空き地が広がっています。ここに20万本の苗木を植えて、ふるさとの森を創造するのです。

2006年から荒地に苗木を植え始め、今では苗木が6,7mまで成長し、小さな林になっています。鳥や昆虫など、いろいろな生き物の営みも見えるようになってきました。

100年の森づくりは、まだまだ始まったところです。この森づくりを、次世代を担う子どもたちにも知ってもらいたいという願いをこめ、この絵本を作成しました。

参考文献：

「図説尼崎の歴史」(尼崎市立地域研究史料館編 尼崎市発行 平成19年1月31日)



～尼崎の森中央緑地～

100年の森の物語

2014年4月1日 第1版発行

2015年3月25日 第2版発行

文 守 宏美

絵 阿部 紀子

発行者 兵庫県阪神南県民センター尼崎港管理事務所

尼崎21世紀プロジェクト推進室

〒660-8588 尼崎市東難波町5-21-8

©2015 兵庫県 Printed in Japan

本書の無断転載・複写を禁じます。

